

ゲストスピーカーのみなさん

●時間は前後する場合があります。



菅野千景さん 15:30～

福島県福島市に生まれる。夫と娘二人と2011年8月まで福島市で暮らす。2011年3月11日震災に遭う。自宅は東京電力福島第一原発から約60km離れていたが、放射線量は室内で0.7～1.2マイクロシーベルト、庭で2.0～6.0マイクロシーベルト、雨どいの下では10マイクロシーベルト以上の放射線量を示していたために、放射能の影響を避けるために、同年の夏休みに子ども達と「ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ」の保養に参加する。保養から一度福島に戻り、8月30日夫を福島に残し母子で京都に避難する。2012年8月に夫の仕事が京都で見つかり家族そろって暮らせるようになる。



吉野裕之さん 17:30～

NPO 法人シャローム災害支援センター職員。子ども達の遊び場としてかかせない「公園」の放射線量を詳しく測定して公表する、ふくしま公園測定プロジェクトに取り組む。詳しくは
<http://nposhalom.sakura.ne.jp/hsf/>



守田敏也さん 17:00～

1959年生まれ。京都市在住。同志社大学社会的共通資本研センター客員フェローなどを経て現在はフリーライター。京都「被曝2世3世の会」世話人、京都市市民環境研究所研究員も兼ねている。

環境問題や平和問題にも関わり、京都大文字山での森林保護活動などを実施。アフガン・イラク戦争に反対し旧日本軍性奴隷問題にも関わってきた。原子力政策についても研究・批判活動を続け、福島原発事故以降は被曝地を度々訪問。各地で放射線防護の講演を行っている。2012年より兵庫県篠山市原子力災害対策検討委員会委員に就任。ヨーロッパなどでも講演を実施し、とくにトルコでは日本からの原発輸出予定地シノップに関わりを持っている。

ブログ「明日に向けて」で情報を発信。著書に物理学者矢ヶ崎克馬氏との共著『内部被曝』（岩波ブックレット）、原発災害対策について述べた『原発からの命の守り方』（海象社）がある。



石田 紀郎さん 18:30～

1940年生まれ。63年に京都大学農学部卒業。同学部助手、助教授を経て、京都大大学院アジア・アフリカ地域研究科教授に。03年に退官した後、NPO法人「市民環境研究所」を設立し、代表理事に就任。その後、京都学園大学バイオ環境学部教授を兼任し、同職を10年4月まで務めた。40年来、公害や環境・農業問題を中心に、市民運動など幅広い分野で活躍中。エル・コープ元理事長。

海南友子さん 16:00～

ドキュメンタリー映画監督。2011年より京都在住。NHKを経て独立し、07年サンダンスNHK国際映像作家賞、09年『ビューティフル アイランズ～気候変動沈む島の記憶』で釜山国際映画祭アジア基金AND賞受賞。代表作は『いわさきちひろ ～27歳の旅立ち』311後の出産をめぐるセルフドキュメンタリー『抱く{HUG}』（ハグ）。近著に『ママと若者の起業が変えたドイツの自然エネルギー』。東日本大震災直後の福島取材中に妊娠に気がつき、2011年6月に京都へ移住。www.kanatomoko.jp



わたしも311で人生が変わった一人です。福島第一原発の10キロ圏内で取材中に妊娠し、京都市に移住して出産しました。子供の健康と安全を考えて気が狂いそうな毎日。未来をどうすればいいか考えてばかりいました。

答えを模索する中で一冊の本を書きました。チェルノブイリからの30年で、ドイツの社会を本当に変えたのは、政治家でも大企業でもなく、母たち、父たち、若者たちの勇気ある小さな一歩でした。悲しい過去の話ではなく、未来の話をしたいです。2011年を不幸な体験に終わらせず、そこから社会がよりよい方向に変わったことを未来の世代に残すために。

